

2010年7月27日

足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ 様
環境エネルギー政策研究所 様
気候ネットワーク 様
グリーンコンシューマー東京ネット 様
市民がつくる政策調査会 様
主婦連合会 様
ストップ・フロン全国連絡会 様
日本環境法律家連盟 様

三洋電機株式会社
執行役員
コマーシャルカンパニー
空調事業部長
兼 事業推進統括部長
安藤 孝男

ヒートポンプの性能測定方法に関する公開質問状の件

謹啓 盛夏の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社社長宛お手紙受領いたしました。担当の当事業部より「ヒートポンプ性能測定方法に関する公開質問状」に関しまして、次ページ以下の通りご回答いたします。

謹白

★ エアコンの性能評価と表示について

エアコンに関して、ユーザーによる一般的なリモコン操作では再現できない方法、いわゆる「爆風モード」を採用したエアコンは、これまでに約 3,000 万台～4,000 万台が販売されてきたと伝えられています。御社のこうした製品の製造、販売状況について質問します。

Q1： 御社の製品の場合、爆風モードによる性能測定によるエアコンの販売を行っていたことがありますか。あるとすれば、その時期はいつからいつまででしょうか。

- A ある (時期：)
B ない

Q2： 毎年の製品ごとに、爆風モードを起動するためのスイッチ操作方法を明らかにしてください（自動起動の場合は明記）。また、各機器の国内販売台数（実績）の概要も明記してください。

弊社のインバーターエアコンの性能表示は J I S (C9612 ルームエアコンディショナ、B8615-1 エアコンディショナー第一:直吹き形エアコンディショナとヒートポンプ-定格性能及び運転性能試験方法) に基づいて、規格にしたがい評価した性能を表示しています。また、J I S の能力測定条件のもとで、運転状態を安定させ、定格能力を正確に測定するための測定モードを有しています。

Q3： 上記の測定方法やその表示は、法令や消費者への情報提供の観点から、適正なものと考えていますか。また、いわゆる爆風モードを搭載していると知りながら、これらの機器を製造・販売していたのであれば、御社としてどのような経営責任をとられるつもりか記載してください。

- A 表示は適正である B 表示は適正ではない

経営責任について

J I S 規格に基づいた性能評価を実施し、省エネ法や品質表示法を遵守した性能表示を行っています。

Q4： 上記の問題に加えて、エアコンの使用時間についても過大に見積もられ、実体とはかい離した表記がなされていると伝えられています。エアコンの性能測定方法や店頭表示方法に関しては、通常作動や時間に即した表示とすべきと思いますが、御社としての今後改善策や基本方針を明らかにしてください。

A 実性能に即した表示とすべき

B J I S に即した表示とする

公正な表示を行う基準としては、J I S に即した表示が必要であると考えています。弊社といたしましては、より適正な基準策定に向けて関連機関とともに検討を進めてまいります。

Q5： エアコンに冷媒としてフロンを使用している場合、カタログにフロンの種類、封入量、地球温暖化効果を表示すべきと考えますが、御社の製品カタログでは表示されていますか？また、冷媒フロンの対応について自然冷媒への転換や今後の表示等についてのお考えをお聞かせください。

A 表示している

B 表示していない

カタログには使用冷媒名のみ表示しています。また、製品にはJRAIAガイドラインに準拠し冷媒名称や封入量だけでなく、冷媒の温暖化係数を考慮したCO2換算量（最大値）も表示しています。現在エアコン用の新冷媒候補は未確定ですが、LCCP（直接&間接影響）評価で温暖化影響が最小となり、且つ安全な冷媒を探しております。

★ エコキュートの性能表示について

エアコンのみならず、エコキュートの実性能は通常においてCOPが2前後であること、寒冷地においては1程度にあると言われ、エコキュートの効率が過大に評価され、不適正な表示がなされていると言われております。温暖化対策施策の中で今後の大幅な導入が見込まれていますが、実態に即した表示がなされていなければ、今後、冷蔵庫、エアコンに続き、3度目の社会的被害となることが懸念されますが、これについて質問します。

Q 6 : 御社ではエコキュートを年間何台程度、製造販売しているか具体的にお書きください。また御社のエコキュートは、性能表示と実性能が上記のように違いがあるのでしょうか。

エコキュートの販売台数 年間 約 10,000 台

- A エコキュートの製造はしていない
- B 実性能はCOP表示と異なる
- C 実性能はCOP表示と同じである

Q 7 : エコキュートの効率について、適正な測定規格・表示を導入する方向に進む責務について、貴殿はどのようにお考えですか。

現在は実使用により近い効率として、JRA4050（日冷工標準規格）で規定されているAPF（年間給湯効率）表示をしています。
新しくJIS規格が発行されればJIS規格に準拠した表示を行ってまいります。

★ ヒートポンプと温暖化対策について

全般的に過大性能評価されたヒートポンプは温暖化対策になるどころか、むしろ対策を遅らせる原因にもなります。また、エアコンなどのヒートポンプに封入されている冷媒フロンは高性能の表示のために増量されてきたとの報告もあり、実体的な省エネ効果がないばかりか、フロンの使用時大量漏えいや回収率の低迷により地球温暖化を促進していることも明らかとなってきました。これについて以下に質問します。

Q 8 : 実態を欠く、虚構のヒートポンプを推進した弁償として、市場に出回った冷媒フロン、いわゆるフロンバンクの回収対策についてどのように考えますか（自己資金によるフロンの買い取りなど）、御社の方針をお聞かせください。

家電リサイクル法の枠組みの中でメーカーとしての責務を果たしております。今後も同様の取り組みを行ってまいります。

Q 9 : 表示性能に満たない製品を購入した消費者に対して、どのように弁償するのか
(金銭賠償や、表示どおりの性能が発揮される製品への取り替えなど)、方針を
お聞かせください。

J I S に準拠し、表示性能を満足する商品を製造・販売しております。

Q 1 0 : (財) ヒートポンプ・蓄熱センターが6月8日、ヒートポンプの高性能化、普及
拡大で大きな経済効果とCO2の大幅削減が期待できるとの報告書を発表しました。
報告書では、冷暖房や給湯がすべてヒートポンプに変われば1億4000万トンの
削減可能性があるとしています。こうした削減PRに関してどのようにお考えです
か。また、御社としてどのように関与する予定でしょうか。

上記の削減量については弊社では試算しておりません。弊社は省エネルギー性の追求だけでなく、ヒートポンプの製造-使用-廃棄の全過程を考慮して環境負荷をより小さくする活動をしています。具体的な例としては弊社の業務用冷凍機部門では現行R404A冷媒使用機より省エネルギー性も優れ更に温暖化係数も低いCO₂冷媒を使用した別置型(直膨)冷凍ショーケースシステムを世界に先駆け今年から日本市場で販売してまいります。

★その他、本件に関して何かコメントがあればお願いします。